



子どもたちの笑顔を支える

放課後の居場所作り

子どもたちの笑顔を見ると、自然とこちらまで笑顔になります。その笑顔の向こうには、毎日仕事と子育てを両立しながら頑張っているお父さん、お母さんの姿があります。

近年、共働き家庭の増加により、放課後の子どもたちの居場所づくりはますます重要になっています。今年度、市では児童クラブの利用希望者が定員を上回り、「利用したいのに利用できない」という課題が生じました。そこで市では、「仕方がない」で終わらせるのではなく、子どもたちと保護者の皆さんの安心を守るために何ができるのかを考え、様々な取り組みを進めています。

その一つが、日本赤十字社愛知県支部のご協力をいただき、鷲塚小学校区の子どもたちを中央児童クラブへ安全に送迎する取り組みです。利用している子どもたちからは、「新しい友達ができたい！」「中央児童クラブへ行くのが楽しみ！」といううれしい声が届いています。

また、児童クラブに入れなかった高学年の子どもたちを対象とした「ランドセル来館」も始まりました。学校帰りにそのまま児童館へ行き、友達と遊んだり宿題をしたりしながら、安全に放課後を過ごせる仕組みです。

先日現場を訪れると、「みんながいてから楽しい！」「友達と遊べるのがうれしい！」と、たくさん笑顔に出会うことができました。

子どもたちにとって大切なのは、単に時間を過ごす場所ではなく、安心して過ごせる居場所があり、友達と出会うことだと思っています。

さらに今年の夏休みには、鷲塚小学校の教室を活用し、受け入れ人数を増やす予定です。支援員の確保も進めながら、より多くの子どもたちを受け入れられる体制作りに取り組んでいます。

今後は児童数の減少も見込まれるため、新たな施設整備だけに頼るのではなく、今ある施設や人材を最大限活用しながら、持続可能な形で子どもたちの居場所を確保していくことも大切です。

今、市は「子どもを真ん中に置いたまちづくり」を進めています。子どもたちが安心して過ごせること、保護者の皆さんが安心して働けること、そして地域の皆さんが温かく見守ってくださること。その積み重ねが、「碧南で子育てしてよかった」と感じていただけるまちにつながると信じています。

子どもたちの笑顔があふれ、保護者の皆さんが安心して働き、暮らせるまちへ。市はこれからも、働くママ・パパの応援団として、子どもたちの未来を支えてまいります。

子どもたちの笑顔は未来からの「ありがとう」。



碧南の歴史へのいざない

問 藤井達吉現代美術館

☎ 48-6602

No.122 草競馬と新体操

今回は、市が所蔵するスポーツに関する写真を紹介します。

上段の写真は、昭和五十九年（一九八四）十二月に油ヶ淵グラウンドで開催された碧南愛馬会主催による草競馬大会の様子を写したものです。大会には三十数頭の馬が出場し、県内各地に加え滋賀・三重・岐阜各県などから愛好者が飼育する馬が集結しました。出場馬の中には国内の競馬場で活躍したサラブレッドの姿も見られ、約二千人もの見物客が歓声を挙げて草競馬を楽しみました。また、会場周辺の土手や空き地では家族連れやグループ客がこんろで肉を焼いたり、手作りの寿司を広げたりする様子も見られ、地域の大イベントとして賑わいました。

なお、会場の油ヶ淵グラウンドは、現在の碧南市民病院の建設予定地



《土手の上から観戦》

であり、馬を走らせることで地盤を固めるという目的もありました。



《日本代表を目指す選手》

です。皆さん、ぜひ来場してみてください。

下段の写真は、平成四年（一九九二）六月に開催されたオリンピックバルセロナ競技大会日本代表決定競技会の様子を写したものです。当時の碧南市は、「新体操のまち へきな」をキャッチフレーズに、市が進めるスポーツ政策の中で新体操を重要な教育・地域活動として位置づけ、取り組んでいました。競技会の様子は、NHKの一時番組組で全国に放送されました。また、碧南の子どもたちによる新体操のアトラクションも併せて行われました。新体操という美と技の競技を通して、市は全国にその名を発信しました。

当館文化財係では、八月一日（土）より三十日（日）まで、碧南市文化会館一階展示室二にて、令和八年度収蔵品展「スポーツから見たへきなんー写真でたどるまちの記憶そしてアジア大会へー」を開催予定です。皆さん、ぜひ来場してください。